

気仙沼-南三陸-鮎川-秋保

おかみさん新春トーク



高橋 知子 さん(41)

1976年仙台市青葉区生まれ。武蔵野音楽大学でピアノを学ぶ。家業を継ぐため2000年に緑水亭入社。若おかみとして、旅館業の切り盛りと秋保温泉の活性化に取り組む。



遠藤 和子 さん(62)

1955年石巻市鮎川生まれ。33歳で遠藤商店に嫁ぎ、子育てが一段落した頃から本格的におかみの職を務める。4月のリニューアルオープンに向け、集客増を練っている。



阿部 憲子 さん(55)

1962年気仙沼市生まれ。東洋大学短期大学ホテル観光科を卒業後、阿部長商店ホテル観光入社。88年から南三陸ホテル観光若おかみ。昨年「みやぎおかみ会」会長。



鈴木 緑 さん(63)

1954年本吉町大谷生まれ。6人姉妹の5女。県立浦高校卒。1990年からおかみ。自家菜園でハーブと野菜を栽培し、食材として提供。大谷海水浴場とJR気仙沼線の早期復活を待つ一人。

東日本大震災から今年で8年目を迎える。結婚式は地域の結びつきを強める。

被災した地域の仲間を失わないように、点在している商店をまとめた「南三陸てん店(てん)まっふ」にも取り組みま

おかげさまで多くの方々に利用いただいています。グラウンドゴルフのクラブや、老人会などの愛好者に重宝がられ、宿泊、宴会を

「ありがとう」と言える人材教育

その分、語り部のレベルアップを図らなければならず、阪神・淡路大震災の被災者の皆さんと実行委員会を立ち上げ、全国語り部シンポジウムを開催しました。レベルアップだけでなく、ネットワー

おかげさまで多くの方々に利用いただいています。グラウンドゴルフのクラブや、老人会などの愛好者に重宝がられ、宿泊、宴会を

「ありがとう」と言える人材教育

阿部 私たちは東日本大震災という未曾有の災害に遭遇しました。自分たちができることは震災のことを多くの人に伝えることだ

「遠藤さんにもお聞きします。どんな1年でしたか。遠藤 当ホテルのある社鹿半島の復興はか

「ありがとう」と言える人材教育

昨今、朝食に力を入れたシンプルステイが増えていると思いが、当館は夕食に力を入れたオーベルジュスタイルを目標と

志津川地区には、三陸新報が配達されていないため情報を得ることができず、まちづく

「感動を与えられる緑水亭にしている」ということを常々思っており、お風呂、料理はもちろんのこと

えま。被災した皆様の利用もまだまだ皆さんの施設も復旧ですが、昨年はミシユラレ、さまざまな営業

お客さまのニーズにお応えできるよう、いろいろプランを企画し、ホームページもリニューアルしました。

お二人の夢や希望を、人材教育に力を入かなえてくれる衣装、写真、花、菓子など、



多岐にわたる話題で意見交換するおかみ

三陸新報

三陸新報社 〒988-0141 気仙沼市松崎町228-100 電話 0226 (22) 6700代 FAX 0226 (23) 6100 URL http://www.sanrikushimpo.co.jp/ e-mail news@sanrikushimpo.co.jp © 三陸新報社 2018年

新春

平成30年元旦



三陸新報の読者お楽しみはペーパータイム 気仙沼市赤岩1-1 TEL 24-5566 本吉営業所 TEL 31-4756

新年号 第3集

2018年1月1日(月)

【三陸新報】

- 出 席 者 ◆ 鈴木 緑さん (はまなす 海洋館) ◆ 阿部 憲子さん (南三陸ホテル観光) ◆ 遠藤 和子さん (ホテルニューさか井) ◆ 高橋 知子さん (篝火(かがりび)の湯 緑水亭) ◆ 三陸新報社編集局長 玉谷誠一